

第四回将来企画委員会 議事録

2010年平成22年5月24日(月) 17:15-20:15 @幕張メッセ 203会議室

出席者(予定):

出席者: 宮脇、大谷、ゆり本、鍵、村上、松井、平賀、土山、河上、小澤

欠席者: 橘、

1. 年会のセッションのあり方について。

2010年度の松江での年回では、スペシャルセッションが4件であった。本委員会からは「はやぶさ」関連セッションを地球化学会との共催セッション(橘委員の企画)で提案した。また、レギュラーセッション1件が資源地質学会とが共催となった。共催は以上の2件であるとの報告があった。

2011年の地質学会との共催の年会(千葉大)においては、平賀委員が地質学会との共催のセッション企画とセッション提案を行うこととした。

2. 国際対応、国際協力のあり方

1) Elements購読について:村上委員よりElements購読の依頼があった購読の可能性について議論した。Elements購読は、鉱物科学のよいレビュー雑誌であり教育上も購読の意義は大きい。また、世界の中で有力な鉱物科学の学会である本学会が購読に参加することは、国際発信の意味でも意義はある。この提案を評議員会の見解として、Elementsの購読を目指す目的、それによるメリット、対国外に何を発信するのかなど鉱物科学会の方針を決める必要があるとの意見が出された。これらの点に関して、本委員会で議論することとした。村上委員に、この件に関する方針のたたき台をつくっていただくことになった。

2) 国際交流:前回の委員会で国際交流を学会として進める必要があるとの答申を行った。国際交流を推進するためには、鉱物科学会として対外方針を決める必要がある旨が評議員会において提起された。この方針のたたき台を将来企画委員会で議論することが求められた。評議員会の議論を受けて、将来企画委員会において、国際対応についての方針案を検討することとなった。この問題は、Elementsの購読の目的にも関連する。したがって、この問題について本委員会の村上委員に、あるべき国際交流方針のたたき台の検討をお願いすることとなった。

以上、二件については、今後たたき台を作り、本年度の9月の将来企画委員会までにe-mailを通じて議論することとした。

3. 地球惑星科学連合の固体地球科学セッションへの対応

固体地球科学セッションのなかで鉱物科学分野がどのように取り組むべきかについて議論した。大型研究のありかた、鉱物科学の問題点について、意見交換を行った。分析セン

ターの必要性などの議論がなされた。連合の固体地球科学セクションのなかでの取り組みとして、鉱物科学会の執行部および評議員であるセクションボードのメンバー（入船会員、松原会長、大谷副会長）が鉱物科学コミュニティーの意見を反映させるべきとの意見がだされた。

4. 鉱物科学会の将来像の検討について

- 1) 教科書の執筆：土山委員より、すでに辞典の出版計画は進行中との報告があった。教科書の出版については、引き続いて検討してゆくことになった。可能な出版社に関する情報、学会のWEBでの公開の可能性などが議論された。
- 2) 評議員会においてシニア会員の設置と学生会員の勧誘のための委員会を会員幹事のもとの設置（河上委員）WGが設置された旨の報告がなされた。
- 3) 新たな問題点：（1）学会賞のありかた、学会賞の内規・運営方針の検討（学会賞選考委員会）に関して、土山委員（選考副委員長、規約検討委員会委員長）と意見交換を行った。
- 4) 学会のありかた、学会賞のありかた、会長の選任方法、副会長の選任方法などについて、将来企画委員会の議題としてゆくこととし、検討結果を必要に応じて幹事会、評議員会に提案することとした。

（以上、文責 大谷）

松原様、小山内様、

昨年 9 月の将来企画委員会において、添付のような審議をし、いくつかの提案をいたしました。これらの提案に対して、関係委員会等のご意見をいただきたいと思ひます。それにもとづいて、将来企画委員会でさらに審議を行う予定です。検討結果をお知らせいただければ幸いです。

検討依頼事項は以下のようです。

1. **Element** の購読について：評議員会
2. 岩石鉱物科学のあり方について：評議員会
3. 年回の共催について：行事委員会
4. 国際交流特に海外の研究者の招待講演について：行事委員会、国際委員会
5. シニア会員の設置と学生会員の勧誘のための委員会の設置（河上委員）：会員幹事

検討結果について、お知らせください。

大谷